

# 第2次

# 豊明市多文化共生推進計画

## (資料編)

- ・ 多文化共生にかかるアンケート調査 (P 1～5)
- ・ 現場インタビュー結果 (P 6～8)

豊明市

# 多文化共生にかか る アンケート調査

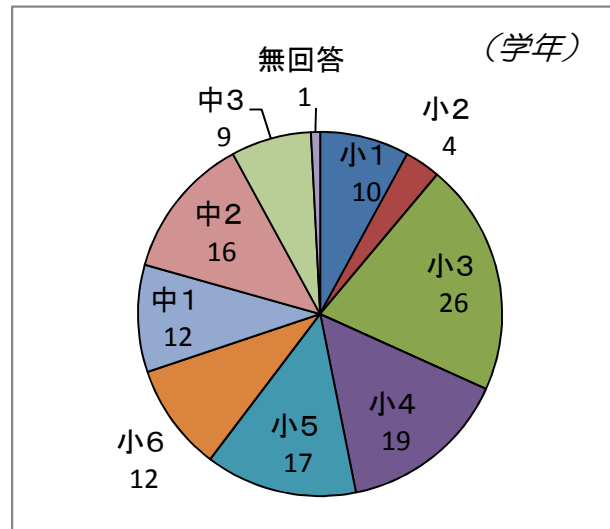
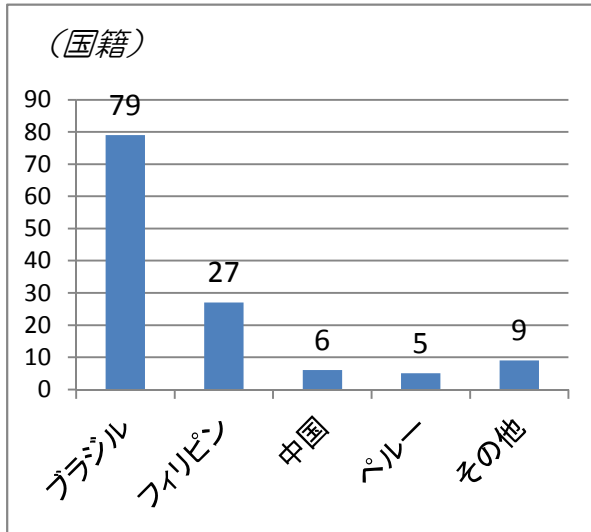
(実施期間) 2017年9月22日から11月17日まで

(対象) 外国人市民の大人・子ども(小・中学生)

(回答) 大人54名 子ども126名

## 子ども 回答結果

### ■ 国籍及び学年



その他9 内訳（ベトナム1、イラン1、ロシア1、トルコ1、日本国籍2、無回答1、ボリビア1、朝鮮1）

### ■ 日本語読み書き

【ひらがな】	①読める	123	②書ける	113
【片仮名】	①読める	116	②書ける	107
【漢字】	①読める	86	②書ける	84

### ■ 日本語理解

A たいてい理解でき、自分の考えを説明できる	65
B 簡単なことは聞き取れ、日常の会話はできる	58
C 少しは聞き取れるが、ほとんど話せない	12
D 全く話せない	1

### ■ 日本語勉強の場所

① 日本語教室（国際交流協会）	19
② プレクラス（プラス・エデュケート）	31
③ 学校	89
④ 家	46
⑤ その他	9

※複数回答あり

### ■ 母語読み書き

① できる	71	② できない	40	③ その他	11
-------	----	--------	----	-------	----

### ■ 母語理解

A たいてい理解でき、自分の考えを説明できる	79
B 簡単なことは聞き取れ、日常の会話はできる	33
C 少しは聞き取れるが、ほとんど話せない	15
D 全く話せない	5

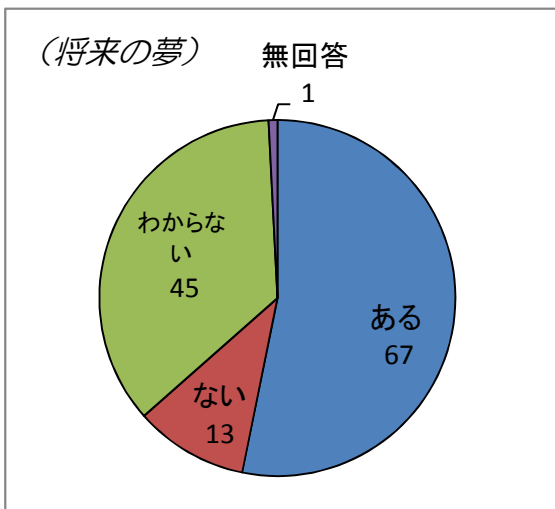
※複数回答あり

■学校で困っていることはありますか。

- 勉強（国語、算数、理科）が難しい
- 日本語がわからない
- 漢字が読めない
- 名前をからかわれる
- ある事柄について、どのようにやっていったらよいのかわからない。
- テストが全く理解できていない。
- 受験
- 悪口を言われる

■生活（学校以外）で困っていることはありますか。

- 日本語がわからない
- 英語は話せないのに、英語で話しかけられる
- 赤ちゃんのお世話
- 両親のけんか
- 宿題

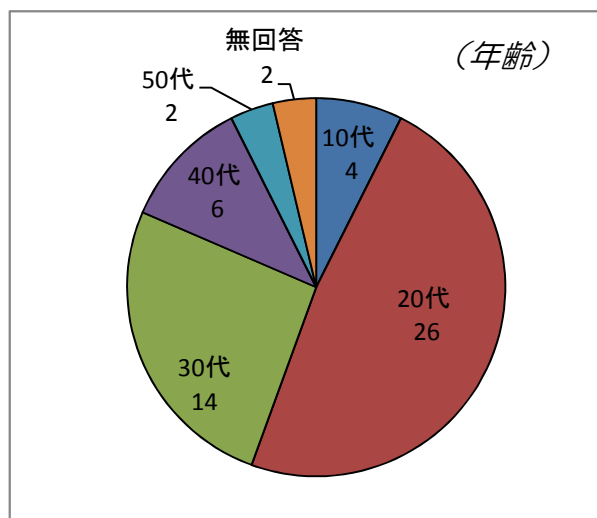
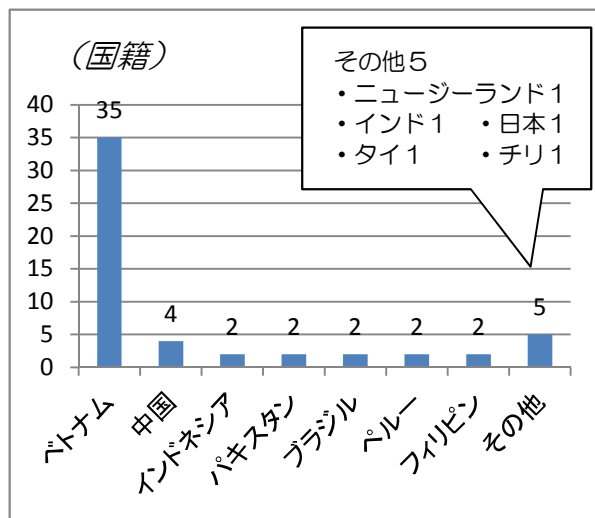


(具体例)

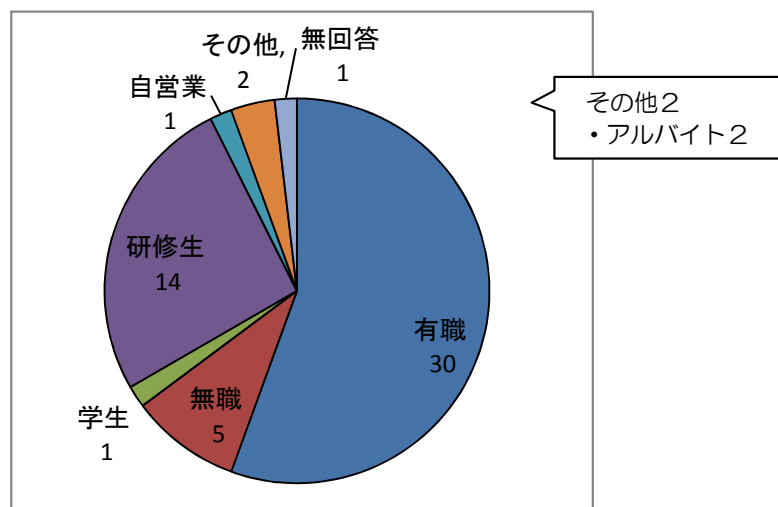
- 警察官
- 教師
- キャビンアテンダント
- パティシエ
- スポーツ選手
- ファッションデザイナー
- モデル
- ロボットクリエイター
- メカニカルエンジニア
- イラストレーター
- ディズニーのキャスト
- 棋士
- 美容師
- 医師
- 保育士
- 消防士
- エンジニア
- アイドル
- 漫画家
- ユーチューバー
- コック
- 獣医
- 看護師

# 大人 回答結果

## ■ 国籍及び年齢

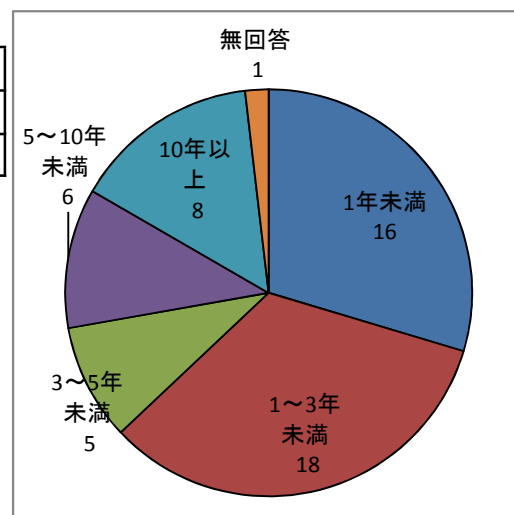


## ■ 職業



## ■ 日本に何年住んでいるか。

①1年未満	16	②1～3年未満	18
③3～5年未満	5	④5～10年未満	6
⑤10年以上	8	⑥無回答	1

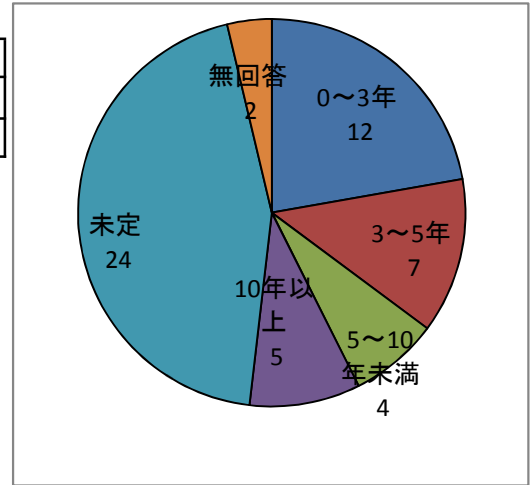


■豊明市に何年住んでいるか。

①1年未満	20	②1～3年未満	15	③3～5年未満	6
④5～10年未満	4	⑤10年以上	1	無回答	8

■今後日本に何年滞在の予定か。

①0～3年	12	②3～5年未満	7
③5～10年未満	4	④10年以上	5
⑤未定	24	無回答	2



■豊明市で生活をして、はじめに困ったことを教えてください。

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語がわからない</li> <li>・お金のこと</li> <li>・仕事が難しい</li> <li>・生活とゴミの分別が慣れない</li> <li>・バス・電車の乗り方がわからない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道がわからない</li> <li>・文化がわからない</li> <li>・市役所で言葉がわからなくて困った</li> <li>・値段が高い</li> <li>・言葉、コミュニケーション</li> </ul> |
|---|---|

■今一番困っていることはなんですか。

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語がわからない</li> <li>・給料は少ないが物価は高い</li> <li>・気候が厳しい</li> <li>・漢字が読めない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道がわからない</li> <li>・生活の中でわからないことが多い</li> <li>・日本語でみんなとなかなか話せない</li> <li>・お金</li> <li>・病院</li> </ul> |
|--|---|

■生活に関する情報について知っているもの

市役所・保健センターの場所	28
スーパー・レストラン等の施設	25
住宅手続きの仕方	25
緊急の場合の対応（救急・消防）	24
公共交通機関の利用の仕方	21
相談できる場所（職業紹介）	19
地震に対する準備	14
レジャー・文化施設の場所	13
税金・年金	13
相談できる場所（育児・教育）	11
相談できる場所（生活）	10
地震、台風の際の避難場所	9
無回答（知らない）	9
相談できる場所（医療）	7
その他の手続きの仕方	2

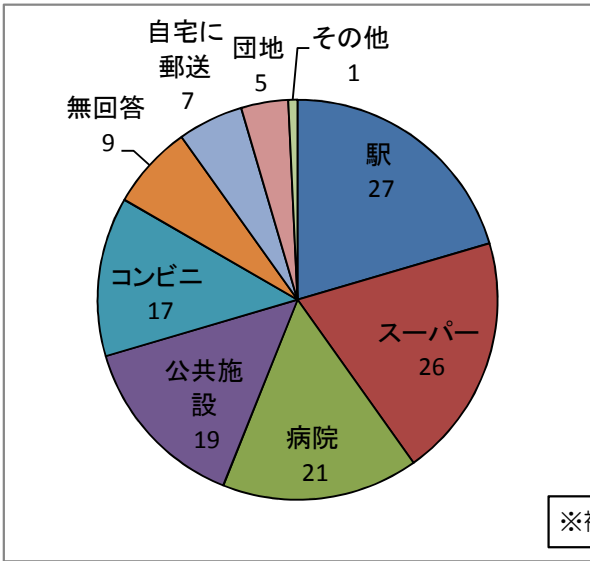
※複数回答あり

■市発行の外国語資料で知っているもの

ごみの収集カレンダー	28
ごみの分別表	28
無回答（知らない）	20
広報とよあけ	12
豊明市病院案内	7
市内案内マップ	5
豊明防災マップ	4
豊明生活便利帳	4

※複数回答あり

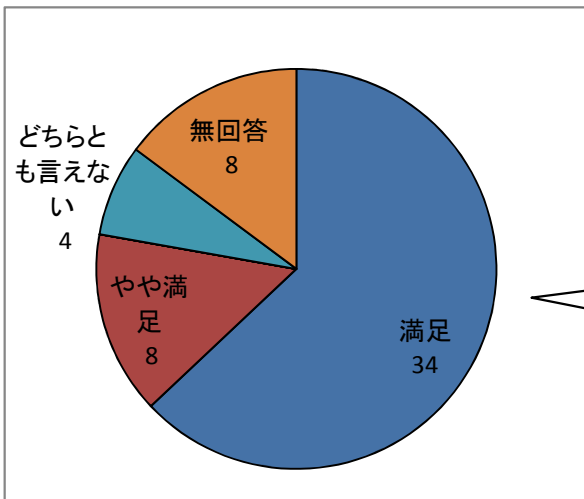
■外国語版広報の設置希望場所



駅	27
スーパー	26
病院	21
公共施設	19
コンビニ	17
無回答	9
自宅に郵送	7
団地	5
その他	1

その他 → 市役所

■豊明市の生活に満足しているか



- (理由)
- 周りの人が親切
  - みんなが親切だし、会社と駅も近い
  - 何でも便利

※「やや不満」「不満」については、回答なし

# 現場インタビュー結果

(実施期間) 2016年12月26日から2017年3月24日まで

- (対象)
- ・ 豊明市国際交流協会
  - ・ 学校通訳
  - ・ 豊明団地自治会
  - ・ NPO法人 プラス・エデュケート
  - ・ 日本語教室（豊明市国際交流協会主催）
  - ・ 通訳意見交換会
  - ・ 外国籍市民施策懇話会



## I こども（未来へつなぐまちづくり）

- 市、保育園、幼稚園、日本語教室が連携を取りながら、日本語指導が必要な対象児童の把握や支援を行っていくことが重要です。
- 母国と日本を行き来している場合は、不登校、不就学になっていることを把握することが困難です。
- 保護者に、子どもの将来に向けての教育の必要性を理解してもらうことが重要です。
- 通訳の配置はもちろん重要ですが、常駐する形でなく必要な範囲、期間で派遣する方法も検討する必要があります。
- 手厚い通訳対応ではなく、自ら日本語を習得しなければならないという状況を作ること大切です。
- 学習指導の際には、学習に徹するために通訳は関わらないように配慮しています。
- 現在ある進学に対応できる学習支援教室を充実させ、支援していく必要があります。
- 保護者の正しい認識がポイントとなります。
- 入学説明会やその他顔を合わせる機会での小まめなアドバイスが重要です。
- 子どもの学力や教育制度に対する正しい認識を持ってもらうことや、単に物を提供するだけでなく、適切に届く支援を考えることが課題となっています。
- できるだけ早い時期に、通訳を伴う進路説明会を実施することで、教育面でも金銭面でも対応・準備ができます。
- 外国人児童・生徒に特に伝えるべき内容が届くようにする配慮が必要となります。
- 母語学習は、親とのコミュニケーション（特に深い内容についてのコミュニケーション）や、将来の進路選択の面で非常に重要です。
- 母語の習得は、できるだけ早い時期（小学校低学年）が効果的です。
- 子どもに大きな影響を与えるような不確定な発言は避けるなど、保護者の意識を変えていく必要があります。
- 効果的な支援とするため、現実的なロールモデル提示することが重要です。

## Ⅱ くらし（暮らしやすいまちづくり）

- 現在ある教室について、生徒の多国籍化や希望者の増加に対応していく必要があります。
- 多国籍化が進み、すべての言語に翻訳対応することは困難なため、英語を中心としたいくつかの言語を交えながら対応することも一つの手段となります。
- すべてを翻訳対応とするのではなく、日本語の習得を第一に考えることが重要です。
- 誰にでもわかりやすいように、やさしい日本語での表記や振り仮名（平仮名）の併記が必要です。
- 多言語での表記など、情報が多く案内がわかりにくくなる場合は、英語併記による対応なども求められます。
- 現在発行している広報の翻訳版について、必要な人に届くように設置場所の工夫が必要です。
- 豊明団地では、行事案内の手段を案内掲示のみに頼っている状況です。
- 相談業務を実施したり、地域の行事に合わせ出張相談を実施したりすることで、生活面やその他について相談できる場を設けることが必要です。
- 転入の際や住宅入居の際の案内を充実させるなど、伝える機会を設ける必要があります。
- 生活で利用するもの（学校、病院など）の案内の翻訳版があると便利です。
- 転入の際に必要な相談先が一目でわかるようなものが必要です。
- 医療機関ガイドマップの翻訳版について、よりシンプルでわかりやすいガイドマップの提供が求められます。
- 医療機関受診の際のアンケート記入や、自動音声案内への対応には困難な状況です。
- 健康保険への加入や健診予防の意味など、日本の制度面の周知を図る必要があります。
- 訓練や防災関係のイベントへは、必ず参加してもらえるような仕組み作りが必要です。
- 防災マップの翻訳版については、たくさんの情報を盛り込むのではなく、明確で簡潔な情報のもの、レイアウトや色合いにも配慮したものが求められます。

### Ⅲ ちいき（元気あふれるまちづくり）

- 地域活動への参画により、お互いの理解が深まるということで、まず案内する手段を検討する必要があります。
- 地域の主催者側へ取り込むことで、多くの外国人市民の参画やネットワークの拡大に繋がります。
- 偏見や差別はあるのものとして、周囲がサポートし、子どもに心の準備をさせる必要があります。
- 自ら日本の生活に慣れるよう積極的に動く努力を促すことが必要となります。
- グループができている同じ国同士の人々が、気軽に集える場所を確保する必要があります。
- 外国人市民同士だけではなく、周囲（外）にも目を向ける必要があります。
- どのようなネットワークができているかを掴み、そこへ働きかけることが重要です。
- 接触できるタイミングを逃さず声かけをしたり、リーダーとなる人を把握したりなど、繋がるための努力が必要です。
- 各種事業とイベント的なものがうまく繋がり、関わる人が増えています。
- 参加者が少ないことで需要がないと判断するのではなく、ニーズや興味を掴み、開催内容を工夫していくことが大切です。
- 交流イベントに参加し、相手の文化を知ることや一緒に何かすることで、お互いへの理解が深まります。
- 事業を継続していく中で、周囲の人の意識にも変化が見られるようになりました。